

## 兄弟的生活における同伴

### 1. イントロダクション

- 1.1 小さき兄弟の共同体の希望に満ちた将来を見据え、SAOOC と EAC の養成担当者は、2017 年 7 月 2 日～8 日の期間、インドネシアのジャカルタにおいて、兄弟会の中心課題である「兄弟的生活における同伴」というテーマを深めるために集まりました。
- 1.2 この共同声明のセクション 1 において、私たちは「小さき兄弟会の兄弟共同体における同伴」に関するビジョンを提案したいと思います。このビジョンはジャカルタにおいて実際にプレゼンテーションとして提案されたもので、私たちの生活の中で同伴の理解と意義を深める努力をさらに生き生きとしたものにするものにするでしょう。セクション 2 においては、プレゼンテーションの後のグループ討議の中で明らかにされた私たちの実際の生活のリアリティーについて触れ、セクション 3 では、これらを通して見出された小さき兄弟としての同伴のビジョンと課題を示し、それらを実現化するために分かち合われたいくつかの具体的な方法論を呈示したいと思います。

### 2. 私たちのビジョン (セクション 1)

- 2.1. 同伴は、初期養成においても、生涯養成においても、養成を行う際のとても重要なフランシスカンの側面を表す言葉です。同伴という言葉はまた、私たちに真の養成担当者が霊性であり、養成の場における主人公が私たち兄弟自身であることを思い出させ、勇気づけてくれます<sup>1</sup>。すなわち、養成担当者 (同伴者) の役割とは、兄弟たちの日常生活の中で神がその兄弟に何を語っているかを深く識別することを助け、そばに立ってともに歩くことであるということです<sup>2</sup>。
- 2.2. 同伴は、私たちを「小さき兄弟」として特徴づけるような、兄弟性に根差したアプローチを強調しています<sup>3</sup>。また同伴は、私たちの具体的な日常生活の中で行われるものです<sup>4</sup>。それは 1 人 1 人の兄弟によって経験され、また兄弟共同体全体によって経験され、そしてまた特別な機会に、管区長や修道院長、初期・生涯養成の霊的指導者やアニメーターによって、専門的な同伴の方法論を通して示され経験されます<sup>5</sup>。また同伴は、常に双方向の関係性によって成り立ちます<sup>6</sup>。それは生活の中での具体的な実践を通して、はじめて真実の生き方の証しとして経験されていくものなのです<sup>7</sup>。
- 2.3. 生涯養成 (OGF) は私たちの日常生活に向けられています<sup>8</sup>。ですから、それは特に良く考えられたプログラムだけを示すものではありません。生涯養成の目的は、あくまで私たちの日常生活の識別にあります<sup>9</sup>。

<sup>1</sup> Cf 会憲 137 § 1; 養成綱領 40; 61.

<sup>2</sup> Cf 養成綱領 94; 148 \*8.

<sup>3</sup> Cf 養成綱領 95.

<sup>4</sup> Cf 養成綱領 96.

<sup>5</sup> Cf 養成綱領 92.

<sup>6</sup> Cf 養成綱領 72; 102; *You have been called to freedom* 23-24.

<sup>7</sup> Cf 養成綱領 140.

<sup>8</sup> Cf 養成綱領 109; *You have been called to freedom* 25.

- 2.4. 生涯養成はまた、よき識別の上に建てられる私たちの信仰の応答に焦点を当てます。私の信仰は、私自身と他者、そして生活そのものを、今までとは違った新しい視点で見つめなおすように促します。世界を新しく捉えなおし、その中で自分自身を新しく見出していくというこの視点は、信仰の眼差しで現実をとらえ、世界の中で、関係性の中に自分の場所を確認していくということを可能にしてくれるのです<sup>10</sup>。これが、養成の模範としての、同伴の課題の中心とすべき視点です。
- 2.5. 生涯養成は、私たちの兄弟共同体のうちで、ある種の質を刺激し、高めてくれます。今回の会議を通して、私たちは生涯養成が、共同体の生活を共有する兄弟たちがその質を高めるために分かち合うべき共通したメンタリティーと態度を育て上げてくれることを確認しました。この新しい見方は、兄弟が互いにより深く議論し、関係性を深めていくことを要求します。生涯養成は兄弟の交わりの場を創り、会議をし、議論し、共に働き、分かち合うために具体的な方法を保証し、提供します。こうした日常生活での取り組みが兄弟共同体を作り上げ、共同体はそれぞれの兄弟を成長させていくのです<sup>11</sup>。
- 2.6. 生涯養成は、教育的な時を刻むものとして、初期養成から始まって、自己の在り方と生き方を養成的・神学的に考える道標として、兄弟たちの信仰の歩みとともにあります。同伴は、養成を経験していくために、フランシスカンの養成に名付けられた名そのものです。
- 2.7. 兄弟共同体の日常の形態は、養成的な機能をもっており、共同体の日常生活の守護者としての院長の役割は、まさにその共同体の日常生活を通しての生涯養成の中心をなしています<sup>12</sup>。
- 2.8. 兄弟の生涯養成における院長の同伴はその主要な特質として、リーダーシップによる奉仕と、霊的権威による兄弟のケアの実践であることが挙げられます<sup>13</sup>。
- 2.9. 院長は兄弟の間で霊的な交わりが深まるように配慮します<sup>14</sup>。公益と 1 人ひとりの善益を守るために、院長は、賢明な警戒と兄弟的な忠告によって、出来る限り悪を未然に防ぎ、ぐらついている兄弟を強めます<sup>15</sup>。院長自身も兄弟的な忠告を必要としています。彼は、兄弟たちによって忠告されることに心を開いていなければなりません<sup>16</sup>。同伴の相互的に働く本質は、院長が兄弟共同体において彼が自分の任務を遂行するに当たり、賢明で繊細であることを求めています。
- 2.10. 兄弟共同体のしもべであるために、院長は養成される必要があります<sup>17</sup>。そのためには 2 つの方向が考えられます。1 つは、会の学びと訓練のプログラムに参加することです。そしてもう 1 つは、院長が兄弟たちに対する霊的な導きを実行に移す場合、彼は共同体

---

<sup>9</sup> Cf あなたがたは自由のために召し出された 5-6.

<sup>10</sup> Cf あなたがたは自由のために召し出された 3; 8.

<sup>11</sup> Cf あなたがたは自由のために召し出された 30.

<sup>12</sup> Cf 会憲 137; あなたがたは自由のために召し出された 48.

<sup>13</sup> Cf. 権威の奉仕と従順 13a

<sup>14</sup> Cf あなたがたは自由のために召し出された 48.

<sup>15</sup> Cf 会憲 252 §§1-2.

<sup>16</sup> *Earlier Rule* 5:4-5.

<sup>17</sup> Cf 養成綱領 RFF 149 § 1.

の日常生活から学び取ったことに心を開き、そこから得た体験から自分自身が指導者として養成されているということを認め学ぶことによってです。

- 2.11. 新しい召命のための霊的な導きは、生涯養成の重要な部分を占めています。これはすべての兄弟の仕事であり使徒職です<sup>18</sup>。 召命のための司牧は、兄弟たちの生活による証しが、召命を求めているキリスト者にとって主要な魅力なのです<sup>19</sup>。
- 2.12. 召命の導きと同伴は、志願者の社会的な成長と同時に、肉体的・精神的・情操的・知的な要素を育てることに向けられます<sup>20</sup>。それは同時に、私たち自身の同伴の力を育て、みずからの召命を刷新していくことでもあります。
- 2.13. 私たちは、収穫の主に信頼しましょう。ぶどう畑に働き手を送ってくれる方<sup>21</sup>は、兄弟共同体にも兄弟の恵みを送ってくださるに違いありません。
- 2.14. これまでの生命は、私たちの未来の姿の一部に関するものです。ここでは特に、「同伴」と「日常生活の証し」というポイントに焦点を当てています。この焦点は、同伴の実践によって完成されていくでしょう。まずは、生涯養成がすべての同伴の土壌であることを認めましょう。そこから、私たちは人生の方法を識別しようとしている人々に手を差し伸べましょう。同伴は、私たちが共に生きることを成し遂げていくための兄弟的方法であり、私たちの生き方に参加したいと思う人々を招く方法でもあるのです。

### 3. 私たちの現実 (セクション2)

#### 3.1. 多様性の中的一致

- 3.1.1. 現実を表すことのできる本質的な状態は、私たちが信仰における多様性を尊重していることでしょう。時としてその多様性が緊張を生むことがあったとしても、私たちはこのこれを大切にしています。私たちは、兄弟として自分の召命を受け取った場所の特別さを反映しているようなそれぞれの兄弟共同体の生活の在り方の多様性を認めています。このことを前提として、今、私たちの向き合っている現実について見てみましょう。

#### 3.2. 養成に関する私たちの豊かな伝統

- 3.2.1. 私たちは、養成における同伴の方法論を積極的に評価しています。その方法論とは、日常生活のそれぞれの仕事を分かり合うことのできる共同生活、福音化の最初の場所としての共同体、養成に関する知的インプットの重要性、共同体の絆を強めるための対話を深めること、兄弟間の対話と勧告、それぞれの養成段階にある兄弟たちのための特別な養成プログラムと兄弟の集い、他の修道会や宗教施設、教区司祭などとの交流への参加、などです。

#### 3.3. 挑戦

- 3.3.1. あらゆる養成のために必要とされることは、心を開くこと、透明さ、よいコミュニケーションを通して私たちをよき養成へと向き合わせてくれるような能力です。兄弟たちと

<sup>18</sup> Cf 会憲 145 § 2; 養成綱領 166.

<sup>19</sup> Cf 会憲 145 § 1; 養成綱領 160.

<sup>20</sup> Cf 養成綱領 45.

<sup>21</sup> Cf ルカ 10,2.

つながり、互いに理解するために努力することは、兄弟的生活にとってとても大切なことです。

- 3.3.2. 私たちは互いに同伴する責任があるのですが、それは努力なしに簡単に達成されるものではありません。養成担当者は、あらゆるレベルにおいて、同伴する兄弟と共に歩いていくために、自分に必要とされる力を絶えず向上させていく必要があります。

### **3.4. 同伴に関する意欲と、よく考察された訓練**

- 3.4.1. 召命担当者と院長は、養成と同伴に関して情熱をもって取り組み、そのための資質を向上させていかなければなりません。彼らは、管区長と理事会によって強力にサポートされている必要があります。

- 3.4.2. In some entities, there is an absence of training for formators and guardians that is sensitive to historical, social and political sensitivities that challenge the brothers each day in our conferences.

- 3.4.3. 私たちの共同体は、それぞれが宗教的体験の異なる過程の上にあります。養成と同伴は、個々の兄弟共同体の成長の度合いに応じて、繊細に考慮された関わりをもたなければなりません。全体として1つの固定した養成と同伴の方法論は、私たちの必要性に合っていないです。

- 3.4.4. 養成に関して、私たちは、800年にも及び私たちを導き試金石となってきた伝統の本地素敵な要素を保っています。しかしながら、私たちの養成と同伴のあり方は、兄弟共同体が置かれている社会・政治的環境にも適応させることが求められています。

### **3.5. 養成のモデルの限界**

- 3.5.1. 現時点で、私たちの生活を深く養成するために、未成熟な反応しか導き出せないようないくつかの養成のモデルが存在します。私たちはこれらを、私たちの生活に即した現実的で有効な同伴のモデルに刷新したいと考えています。

- 3.5.2. ある共同体の養成担当者や霊的指導者は、自分たちの殻を破って、他の兄弟共同体と定期的に、あるいは個人的に接触し分かち合うことをしていません。それら外の兄弟共同体は、自身の共同体に新しい風を送ってくれたり、自分たちを振り返り同伴の方法を察してくれるような新しい活力を与えてくれるかもしれません。

### **3.6. 現代の養成の挑戦**

- 3.6.1. 今日、兄弟たちが向き合わなければならない新しい現実が存在します。それは私たちが直接に向かい合うことを阻むような仮想現実の世界と、その仮想現実の上にあるような人間の関係性の台頭です。もちろん仮想現実の世界のすべてが否定的な側面だけということではありませんが、仮想的に結ばれていると思われる関係が、実は多くの人々の孤独と散逸の原因となっていたり、真の人間の経験と健康的な人間の連帯感を阻害していることも少なくありません。

### **3.7. ある共同体にとっての、社会的・政治的現実**

- 3.7.1. すべての共同体は、日々私たちを囲んでいる社会的・政治的な力の影響を受けています。いくつかの共同体は、時として非常に攻撃的な社会的・政治的勢力によって挑戦を受けているのが現実です。こうした勢力は、私たちに、フランシスカンとしてのアイデンティティと宣教の方法を常に確認し、刷新していくことを求めてきます。

### 3.8. 個人性と個人主義

- 3.8.1. 福音に対する個人性（個人として向き合うこと）と個人の応答は、真正のフランシスカンの価値を有していますが、しかし、個人主義は兄弟共同体に対する脅威です。
- 3.8.2. 個人として共同体としてネガティブな経験や振る舞いが蓄積すると、そこに個人主義が台頭してきます。兄弟共同体の中での孤立化は、真正の兄弟的同伴がなされているなら起きることのない問題です。
- 3.8.3. 個人主義は、時として兄弟が個人の使徒職に没頭している時に生起してきます。多くの場所で、使徒職の多忙さが兄弟共同体を危険にさらしています。
- 3.8.4. 志願者しばしば、養成担当者とはまったく違う文化的背景や個人経験の中からやってきます。この事実はしばしば養成において大きな挑戦となり得ます。
- 3.8.5. 私たちの生活の中での、自己決定の自由の過度の期待は、私たちの時代の特徴でもあります。養成と養成担当者にとって大きな挑戦となっています。E

### 3.9. 荘厳誓願に関する同伴

- 3.9.1. 荘厳誓願を宣した兄弟や司祭である兄弟に対する挑戦は決して小さいものではありません。独りでの司牧や共同体からとおく距離を置く態度は、兄弟共同体にとって大きな挑戦となり得ます。

### 3.10. 真に養成的な兄弟共同体となるために

- 3.10.1. すべての良き生き方のためには、変化、成長、進歩が鍵となります。しかしながら、兄弟の中には生涯養成を拒否して、自身の養成において他の兄弟に同伴されることを拒む者がいます。
- 3.10.2. 院長は、共同体の中では伝統的に「奉仕の提供者」と見られ、「養成担当者」と考えられることはありませんでした。しかし私たちの会の資料は、院長の養成的役割の重要性について常に語っています。

## 4. 新しいビジョンと新しい現実へむけての旅（セクション3）

### 4.1. 導入

- 4.1.1. このセクションでは、兄弟共同体での私たちの日常の生活の中で同伴が行われるためのいくつかの可能な方法を挙げてみたいと思います。

### 4.2. 小さき兄弟会の養成に関する資料

- 4.2.1. 会の養成に関する資料は、それぞれの管区と共同体において、その背景に合わせて用いられるべきです。生涯養成の担当者と院長は、これらの養成資料を適用させるための主要な役割を担います。
- 4.2.2. 会の養成に関する資料を実践するために、それぞれの共同体へとそれらを適用していくプロセスは共同体の刷新と成長を促していくために兄弟たちを力づけてくれるでしょう。そうして適用された資料は、「院長職の手引書」として、重要な鍵となるに違いありません。そのような鍵となるテキストは、その共同体の財産として、兄弟たちを助け励ますものとなります。

### **4.3. 院長と兄弟共同体**

- 4.3.1 すべての兄弟が、小さき兄弟会の生活の中でも院長の重要な役割を理解していくことは、必須であり、重要なことです。
- 4.3.2 同伴者としての院長の役割を確認することは、まずは管区長と理事会にとって最も大切な優先事項です。すべての兄弟たちは、院長の同伴者としての重要な役割と模範であることを、その姿を通して、次第に理解し、学んでいきます。
- 4.3.3 管区長は、同伴者としての院長の重要な役割を十分に理解し、共同体にそのような同伴者を提供するよう努力しなければなりません。兄弟共同体には、属する兄弟たちに喜んで同伴し、またそれができるような院長が立てられなければなりません。

### **4.4 同伴者の訓練**

- 4.4.1 同伴に携わるすべての指導者、すなわち院長、初期養成の担当者、生涯養成の担当者、召命担当者は、同伴に関してよく訓練されなければなりません。
- 4.4.2 同伴に関する訓練には、以下のような内実が伴います。すなわち、人間性の成長、コミュニケーションスキル、人間関係の構築、非暴力コミュニケーション、カウンセリングと問題解決能力、フランシスカン靈性、フランシスコ会の歴史、院長職に関する会の資料の学び、僕としてのリーダーシップ、識別力、兄弟の内面を理解する力、同伴の技術、教会法と市民法に関する知識、兄弟共同体における危機管理能力（個人および共同体の両レベルで）、生涯養成に置ける司牧的相談役の力、院長に対する靈的同伴の力、などです。

### **4.5 同伴の時と場所**

- 4.5.1 靈的交わりの導きと同伴は、個人的であるとともに共同体レベルでもなされなければなりません。そのことは、共同体が管区会議の際にクローズアップされるときに重要になるでしょう。また同時に、院長が（管区会議の後）それぞれの兄弟に向き合うときに、同伴の力がはたらくことになります。
- 4.5.2 管区会議は、兄弟共同体のビジネスの問題が話し合われる場であるよりも、むしろ対話の場であるべきです。管区会議は、兄弟たちが個人の生活の中や使徒職の現場で感じた神の現存の体験について分かち合うべき場です。
- 4.5.3 こうした同伴と靈的交わりの時と場所は、忍耐強く、互いに対する尊敬に満ち、また互いを歓迎する雰囲気の中で行われなければなりません。

### **4.6 対立関係が生じている時の同伴**

- 4.6.1 私たちの奉獻生活の長い旅路の上では、個人としても共同体としても、時として危機を迎えることがあります。それらの危機はあらかじめ知ることが難しいのですが、しかし、確かに起こることを私たちは知っています。
- 4.6.2 そのような危機に直面する時、これに勇気と忍耐をもって対処しなければ、私たちは個人としても共同体としても、存在の真正な根拠を揺るがすことになるかも知れません。
- 4.6.3 私たちが危機を迎える時、互いに同伴するという態度が非常に重要となります。院長は共同体がそのような敵対の危機を迎える時、中心的な役割を担うことになります。

#### **4.7 院長と兄弟共同体に対するサポート**

- 4.7.1 完璧な兄弟はいません。院長がフランシスカンの生活を支え励ます中心的な役割を演じているのと同じく、私たち自身も、フランシスカンの生活を生きるための外的なサポートを得ることが必要な時があります。
- 4.7.2 私たちの生活には、外的な助けを得るのがふさわしい時があります。そのような時として、年の黙想、個人的な霊的同伴を受けること、司牧的カウンセリング、心理学的カウンセリング、または兄弟共同体の生活の特別な時期を支える特別な外的指導などが考えられます。

#### **4.8 同伴と、生活の見直しへの誘い**

- 4.8.1 私たちの時代には、この世界への働きかけとして、もっと外に出かけていき、識別し、召命活動を広げ深めていくことが求められています。これらはすべての兄弟が担うべき責任であり、それは若い兄弟たちも例外ではありません。召命活動全体を共に働く場として調整し導くのは、召命活動チームの役割となります。
- 4.8.2 私たちは召命活動のためのプログラムと活動の計画を立て、召命とその識別に関心のある若者たちを励ましていきます。私たちは若者 1 人ひとりの召命の特別性と尊さに心を開き、彼らの識別における多様性を喜び迎えなければなりません。
- 4.8.3 私たちは、私たちの兄弟的生活を通しての証しと、その歩みの上における兄弟間の係わりと相互同伴という在り方の重要性を提案したいと思います。それはまた、私たちの召命活動の核となる理念です。私たちは、私たちの現実の生活を見て召命を考えてくれるような若者を、共同体に招いていきたいと思います。
- 4.8.4 私たちは生活の証しを周囲の人々に示すにあたり、自らの日常が真正のフランシスカンの生活であり、真の喜びと兄弟愛にささえられ、聖職者中心主義から自由な共同体を形成していることに確信をもつように努力したいと思います。
- 4.8.5 私たちは召命活動を展開する上での私たち自身の要望と、召命を感じて私たちのもとに来る若者たちの願いを知るために、メディアや社会的ネットワーク、そして兄弟間のチームワークをも含めていつも繋がっていて、それらを懸命に利用できるよう努力します。

#### **4.9 霊的な導きと祈りの生活**

- 4.9.1 私たちはこの声明を、はじめと同じように締めくくりたいと思います。私たちは、私たちフランシスカンの生活に大きな多様性があり、それが私たちの強さのしるしであるとともに、脆弱さのしるしでもあることを認めます。
- 4.9.2 私たちの兄弟的生活にとって、私たちの召命が神からの恵みであることを認めることはとても重要なことです。私たちにとっては、神ご自身が私たちの最初の霊的指導者であり、この理解の下に、院長が私たちの日常生活を導き、励まし、同伴する重要な役割を担っていることを、確認したいと思います。